

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月21日

【評価実施概要】

事業所番号	3670200421
法人名	社会福祉法人 平成記念会
事業所名	グループホーム 鳴門
所在地	徳島県鳴門市撫養町木津445-1 (電話) 088-685-8688

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 12月 21日

【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤11人, 非常勤6人, 常勤換算	2階8人, 3階8.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000~27,900 円	その他の経費(月額)	実費
	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,380 円		

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	9 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.4 歳	最低	68 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・板東診療所 ・博愛記念病院 ・みきゆう歯科
---------	------------------------

徳島県 グループホーム鳴門 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物の1階はデイサービスセンターで、2階、3階がグループホームとなっている。広々としたホールの両端に居室があり、利用者の動きも目に入りやすい構造となっている。バリアフリーの上、障害物がほとんどなく車椅子での移動が自由にできる利点がある。全室トイレ、洗面所、ベッドが完備している。開設当初から地域との関わりを大事にしてきたので、運営推進会議の開催にも多くの住民の方が参加され、地域に支えられたホームとして、地域密着型の実践ができています。また書類に関しては個々の支援記録等電子カルテとなっており、全職員が操作し、情報共有による支援の一貫性が保たれている。ホーム便りは、写真やカットを取り入れカラフルで見やすく編集されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題であった、権利、義務の記載については、契約書の第13条と14条にそれぞれ明記され、改善されていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で話し合いをしながら自己評価を作成し、仕上げている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催されている。出席者は利用者、家族、地域包括支援センター職員、市介護相談員、自治振興会長等で、議題は管理者がホームの状況に応じて決めている。討議内容は入退居者状況、外部評価・相互評価の報告、行事報告と予定、消防自主訓練など会議を通して地域との交流や情報交換もでき、グループホームの理解やサービスの質の向上につながる良い機会となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会を定期的に行っており、出席率も良く、孫やひ孫など家族連れで参加される人も見られ、意見交換も十分できている。また、苦情や不安などはその都度話し合いをして解決するようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会の活動に参加したり、地域の人に消防訓練に参加してもらったり、デイサービスに来られている人と交流したり、近所の天理教会へ行き、お茶をよばれたりするなど、地域の人との関係を日常生活の中で作り上げてきている。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を作り上げ「自由」「尊厳」「喜び」の3つを掲げている。また、それを具体的に「仕事」「役割」「楽しみ」としてわかりやすく表現している。しかし、理念の見直しがされていない。	○	独自の理念を作り上げているが、地域密着型としての理念の見直しが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	名札の裏に理念を印刷しており、業務中にもすぐ読み返すことができるようにして、日々の実践と結びついている。しかし、地域密着型の理念の共有はできていない。	○	地域密着型の理念を見直され、実践にむけて全職員で共有できるように取り組んでいかれたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初からの積み重ねとして、地域の自治会との連携、地域行事への参加を続けており、11月に開かれた地域の運動会にも参加して、一緒に楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善点も十分話し合いをもって改善されており、評価の意義は十分理解している。自己評価も全職員で話し合い作成されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催され、利用者、家族、地域包括支援センター職員、市介護相談員、自治振興会長等で構成されている。議題は管理者がホームの状況に応じて決められ、入退居者状況、外部評価・相互評価の報告、行事報告と予定、消防自主訓練など会議を通して地域との交流や情報交換もでき、グループホームの理解やサービスの質の向上につながる良い機会となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常に行き来する関係が築けており、入退居時には報告や相談をしており、サービスの質の向上に努めている。また鳴門市介護相談員事業の受け入れによりサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回は支払いも兼ねて来所してもらうようにしている。その時に暮らしぶりや健康状態、金銭管理などを知らせるようにし、またホーム便りも配布している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族会で意見交換したり、アンケートを取ったりして、いつでも意見を出せるようにしている。意見や不満が出された時は、その都度対応策を検討し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	あまり職員の異動はしていない。開設当初からの職員も多く、利用者へのダメージにならないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加や、研修内容を報告し、全職員で共有している。また、業務の役割分担を通して仕事で成長していけるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他のグループホーム職員の参加を依頼したり、また、依頼されるなどで交流を図り、サービスの質の向上や情報の共有につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅(病院・施設等)を訪問したり、ホームの見学などで顔見知りの関係を作り、不安であれば体験利用してもらうなど、人や場の雰囲気に馴染めるようにしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の長年の生活の中で培われた体験などを聞かせてもらい、楽しかったことやつらかったことなどを共感できる支援をしている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向の把握に努め、今まで楽しんできた趣味を、やめてしまわないように継続の声かけしたりして支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別の担当職員を決めており、課題を出し、利用者、家族の意見も十分取り入れ、職員全員で話し合いながら、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、期間ごとの他に、必要な場合は随時話し合いをしながら見直しを行い、再作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の要望に応じて通院や外出支援等に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に添ったかかりつけ医への受診支援が適切に行われ、事業所との連携もできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、ホームでの看取りが可能な間は、常時、家族や医療関係者と方針等について話し合いを持ちながらすすめているが、終末期に向けた全員での方針を共有するまでには至っていない。	○	重度化・終末期の取り組みについて十分検討され、方針を共有できるよう取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つけないよう支援し、記録の取り扱いについても個人情報保護への配慮を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日程を決めたうえで、さらに本人の希望を聞きながら一人ひとりのペースに合わせた支援を大事にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やあと片付けは、利用者ができる範囲でしてもらっている。利用者と一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は決めてしまわず、いつでも入浴できるよう柔軟に対応している。入浴を嫌がる人も声かけや誘導を工夫し、週3回は入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに役割を持ってもらうことで、生きがいにつながるので、テーブル拭きや編み物をするなど喜びのある生活につなげている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など、できるだけ戸外に出るように声かけしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放している。玄関からエレベーターに乗らないと外に出られないので、その操作に時間がかかるようになっていて、その間に職員が対応するようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者とともに年2回避難訓練を実施している。地域の人にも参加してもらい、螺旋階段の使用など実際に即した訓練を取り入れて行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同敷地内の他施設に勤務している栄養士より毎日の献立表が届けられ、カロリー計算も細かく、栄養面のバランスも偏らずに確保できている。水分については摂取量の記録をし、不足しないように支援している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1ユニット1ホールなので、広々とした空間になっている。殺風景にならないように壁面や柱に季節を感じさせるクリスマスの飾り付けや畳1枚分の座れる台(移動できる)や応接セットを置くなどし、生活感や家庭的雰囲気作りを工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は自宅で使い慣れたたんすや置物・写真などを飾って本人の落ち着いた居場所になるように工夫されている。		